【完全版】人喰鉄道

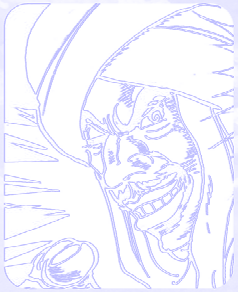
ひとくいてつどう

登場人物紹介

パタースン
本作の主人公。強靭な精神力を持つ青年鉄道技師。

ハレンチ
土工頭。臨病者だが所長の死に責任を感じている。

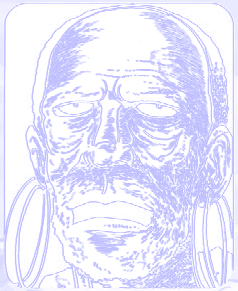
ハルスレン
パタースンの親友。鉄道敷設工事の所長。



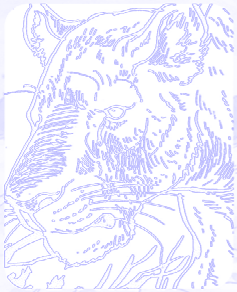
ダルカンス
商人。労働者たちをたぶらかし、脱走させた悪党。

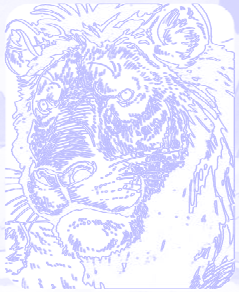
ビヤード
医師。敷設現場に蔓延するコレラを撲滅するため立ち上がる。

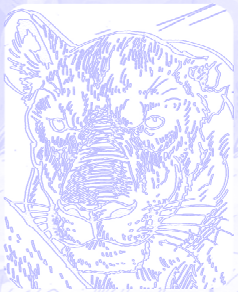
ブータ
マサイ族の男。パタースンに命を助けられた後、行動を共にする。



レナナ
マサイ族の大酋長。鉄道敷設の迷惑者だったが……







人喰ライオン3匹(三本指/黒タテガミ/カケ耳)

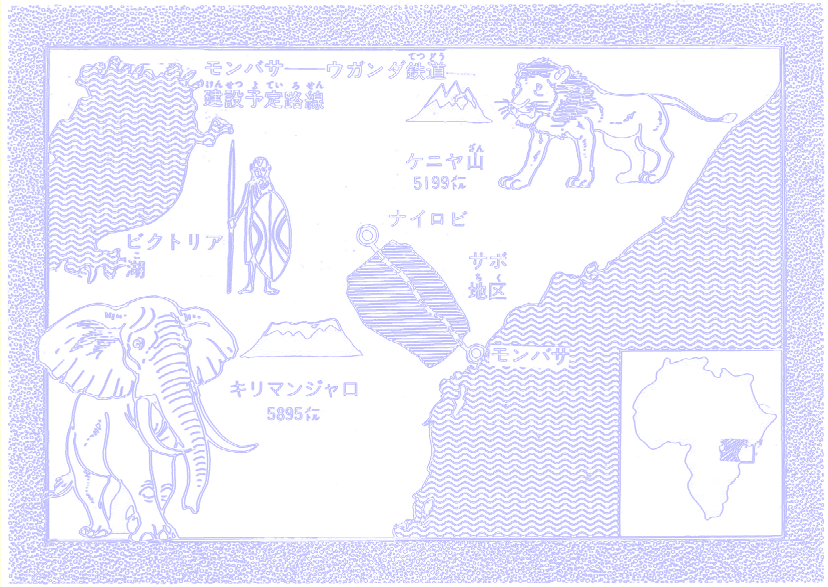
1896年夏、東アフリカのイギリス植民地(今のケニア)モンバサから奥地ナイロビへむかって、一匹の『鉄のヘビ』がノロノロと、はいだした。鉄道…それは、文明のしるしであった。ところが、よく1897年夏、『鉄のヘビ』が、サボ河にたっした時、突然発生した一頭の悪魔のため、一歩も先へすすめなくなってしまったのだ……。

まえがき

野生の世界につれられて東アフリカ三国に出かけたのは一九六七年七月〜八月『人喰い鉄道』の原作者・戸川幸夫先生と一ヵ月、ともに寝起きをしながらサバンナをジープで駆けまわった。下地図上の、モンバサ・ナイロビ間の鉄道建設の最中に出現した"人喰いライオン"との戦いの話を伊藤忠商事のAさんの仲介でゲイムレンジャーM・コウィー氏からきいた私たちは、少なからず興奮をおぼえた。毎日のサファリは楽しい。しかし平和な動物の群ればかり写真を撮りつづけた私たちは、そのうらにある真の野生世界と人間の衝突の悲劇と雄々しい生命の物語に出会えたことに感動したのだ。いまの日本から失われたダイナミックな野生の世界を皆様にささげる。

二〇〇七年一月十六日国立にて

石川 球太



ウ
ウ
ス
ウ
ウ
ウ
ドサッ
!!グハ

ガガガ
ウウウ
キイーッ

ちっき
しょう、
おしいこと
をした。
めったに
ねえ、
大物
だった
のによ!!

サバンナに
夜がきた……

弱い動物が、
おびえる夜が…

野郎ども!!
バラスト(小石)の
まきぐあいは
いいか!!
レールは
重いぞ
しっかり
もてーっ!!

しっかり
働けーっ!!

この鉄道が
できれば
みんなよくなる。
それを思って
いっしょう
けんめい
働くんだぞ!!

仕事は
つらくて
苦しい
けれど、
国にゃ
女房が
まっている、
子どもがないて
まっている。

ドーン
ドーン
ドーン
ドーン

ただいま5時、
作業終了の
タイコを!!

やーい、
野郎ども
おわって
よしーっ。

INK

数人の白人以下
ここには、
千人のインド人
三千人のアフリカ人が
労働者として……
合計四千人以上という
大部隊が集まっていた。

二か月あとに大雨季をひかえ、
工事は急がれていたが、
猛獣のいる原野では
夜の作業は不可能だ。
人夫たちは、合い図など
なくとも、太陽が
キリマンジャロ山の肩に
かたむき始めると、もう
さっさと作業をやめ、
晩めしのしたくに
とりかかるのだった。